



「褥瘡と医療安全」

医療安全小委員会

褥瘡委員会委員長 渡邊 晴二

高齢者社会を迎え、褥瘡は医療施策上の極めて重要な問題となっています。当院でも医師、看護師、栄養士、薬剤部、ME部、リハビリ部など複数の職種からなる褥瘡対策委員会が編成され、病棟回診や委員会で褥瘡発生状況や患者の治療方針など褥瘡全般について検討を行っています。

特に褥瘡発生率は病院における「医療の質」として捉えられています。当院での平成26年度目標値は1.8%（3年間の平均値で算定）ですが、高齢入院患者が多いことなどにより目標値が他医療施設に比べ高めに設定されているのが現状です。褥瘡発生率について言及することは、すなわちマットレスの選択法、体位変換法、栄養状態、治療、退院後の在宅医療など多項目に精通しなければなりません。これに加え、褥瘡持込み患者や難治患者の指標となる保有率や治癒率にも眼を向けて総合的に褥瘡を考えることを心掛けています。

医療安全については、皮下組織以上（深達度3、4度）の褥瘡新規発生者は医療事故とみなされ、医療安全委員会への報告が必要です。早期発見できたか、カルテに経過が記載されているか、マットレスの選択、栄養、治療などの項目について問題提起し、解決策を検討しています。

当院では新病院移行時に電子カルテ内に褥瘡管理システムが導入されているため、危険因子患者、ハイリスク患者、保有者などの情報共有が可能となっています。情報を共有することで褥瘡への意識が向上すること、加えて個別学習を支援するeラーニングを用いた職員教育も行っており、知識向上にも努めています。

褥瘡全般に対する知識も大切ですが、重要なのは問題を1人で抱え込まず複数で共有し、医師や同僚に気軽に聞けるような人間関係、病院全体の風通しの良さなどの体質が褥瘡発生率、保有率や治癒率を是正し、最終的に医療安全にもつながると思います。

不明点、疑問点などは気軽に声をかけて頂きたいと思います。宜しくお願い致します。



褥瘡チームラウンド 風景
多職種チームによるラウンド

医療安全 褥瘡対策研修会 風景
平成26年12月2日開催

👉 回覧										

医療安全通信は、各部署で回覧サインし、保管をお願いします。

患者さんの安全を高めるための取り組み紹介

❖ リハビリテーション部では、患者さんの誤認防止、訓練中の患者さんの急変に対応出来るよう積極的に取り組んでいます。

- ★出療患者さんのフルネーム確認を徹底しました。送迎の看護助手さんにも協力を頂いています。
- ★BLS の認定を受けた職員を中心に BLS 勉強会を開催。スタッフが 2 回以上参加できるように予定を組み実施しました。(急変の対応シミュレーション研修の一環)
- ★心電図モニターの勉強会を開催しました。講師に循環器内科教授福田先生をお招きし、2 回開催。今後も継続予定です。
- ※ 今後は「輸液ポンプと酸素ボンベの取り扱いについて」の講習会も開催していく予定としてリハビリ中の患者さんの安全を確保していきたいと思っています。

❖ 身体抑制は、説明と同意のもと、頻回な観察と患者カンファレンスを行い、毎日適応を判断しています。 マニュアルの適応基準の遵守心がけています。

<身体抑制は緊急やむ得ない場合の3つの要件を全て満たし、且つ問題点リスク1項目以上の状態の場合のみ適応許可されています。>

【緊急やむ得ない場合の3つの必須要件】

- ★切迫性→生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高い
- ★非代替性→身体抑制その他の行動制限を行う以外方法がない場合
- ★一時性→身体抑制その他の行動制限が一時的なもの、必要最小限である事

【問題点リスク】

- ・意識障害や不穏、せん妄、激しい興奮などがある
- ・転倒・転落の危険性が高い 危険度Ⅱ以上
- ・ドレーンチューブ類の自己抜去の危険性が高い 危険度Ⅲ
- ・生命維持に必要な治療や処置に協力が得られない
- ・自殺企図又は自傷、他害などの危険が著しく切迫している

行動制限の説明・同意書は、平成 26 年 8 月に改定：抑制期間が過ぎても、必要性がある場合は、患者さん・ご家族に再度説明し同意書の取得が必要です。

❖ 医療機器管理 部署のセントラルモニタを定期点検ラウンドしています。

ME 部では、平日セントラルモニタの点検を行い、受信状態、日時、アラームの確認をしています。点検時に電池切れマーク、電極外れマークなどが表示されていることがよくあります。電池切れマークが出た時は、電池残量がほとんどありません。なるべく早く電池交換、電極確認を行ってください。テレメーターの電池は新品で約7日間連続使用できます。長期使用の患者様は定期的交換するようにしましょう。

👉 その他に、検査や処置中などは、中断機能を利用しましょう。

みんな がんばって安全性を高めています。ありがとう。

